

COG2025 応募内容確認書

ID	60-30-2
自治体名	沖縄県那覇市
自治体提示地域課題	地域課題解決に向けた協働による新たな取り組みへのチャレンジ
チーム名	サスティナベイビー
アイデア名	テック×まちづくり ～テクノロジーによるマッチング×まちづくり～
チーム属性	学生：学生（ ）だけで構成されたチーム
チームメンバー数	6
代表者	狩俣 有来
メンバー（公開）	狩俣 有来, 陳 思帆, 饒平名 萌碧, 屋宜 陽菜乃, 平良 帆乃美, 與儀 祐希乃

【確認事項】

- < 応募のPDFファイル名と送付先 > 確認しました。
- < 応募内容の公開 > 確認しました。
- < 知的所有権・肖像権 > 確認しました。問題ありません。

テック×まちづくり

～テクノロジーによるマッチング×まちづくり～

高校生チーム サスティナビビー

該当する自治体名：沖縄県那覇市

自治体提示の地域課題：地域課題解決に向けた協働による新たな取り組みへのチャレンジ

1、アイデアの全体像

1-1.提案するアイデアのあらまし

私たちが提案するアイデアは、沖縄県那覇市首里石嶺の地域団体と高校生のマッチングを簡略化し、地域活性化のための地域イベントを企画・実行しやすくするアプリの開発である。首里石嶺地域の課題を調査した際、かつて地域活動を担ってきた世代が年齢を重ね、中心となって活動を立ち上げる人が不足していることを知った。その要因の一つに、中高生などの若い世代が地域活動に参画していないことがあると分かった。これに加えて、地域団体も地域でのイベントの開催を望んでいたり、地域活性化に貢献する若い人材を求めていることを知った。このような状況を受け、高校生と地域団体との間に新しい交流の仕組みを作る必要があると考えたことがアプリ開発に至った背景である。本アイデアは、地域活動の情報を一覧で確認することができ、情報収集から参加申込みまで一つのアプリで完結するものを目指している。中高生は活動の概要や募集条件を手軽に見ることができ、地域団体は必要な人手や企画内容を明確に発信できる。さらに、中高生はイベントに参加するだけでなく、地域団体と連携してイベントの立ち上げを行える仕組みを設け、地域側が中高生の視点を取り入れやすい形を実現した。アプリ全体として、世代間の交流を創出し、地域活動を持続させる新しい連携モデルを提供することを目指している。

1-2.提案するアイデアの内容



What 本活動は、沖縄県那覇市首里石嶺地域において「高校生と地域の接点不足による地域活動の衰退」という課題を解消し「地域活性化」を進めていくために、高校生と地域団体を繋ぐマッチングアプリを開発する取り組みである。①高校生が地域イベントに参加しない・できない、②イベントを立ち上げたい高校生が何から始めれば良いか分からない、③地域団体が求めるイベントを立ち上げる人材がない、という複合的な問題を1つのプラットフォームで解決することを目的とした。開発するアプリは2つあり、「参加者向けアプリ」と「団体向けアプリ」で構成される。参加者向けアプリでは、イベントに参加したい高校生が首里石嶺内で行われるイベント情報を一覧で確認できる仕組みを提供する。加えて、「自分でもイベントを企画したい」という高校生が、地域団体と繋がる機能を設けた。また、団体向けアプリでは、開催予定のイベントの宣伝が容易と

なり、高校生と協働して新しいイベントを生み出すことができる。これら2つのアプリを連携させることで、地域情報の循環を促し、イベントに参加しやすい環境づくりを目指した。加えて、イベントを立ち上げるまでの流れを簡略化した。このアプリの新規性は、高校生が受け身の参加者に留まらず地域活動を生み出す主役へと変化できる点や、地域団体が外部との関わりを持ちやすくなり新しい創造の場が生まれる点にある。

Who 本活動は、地域課題を学ぶプログラムに参加した高校生6人の学生チームが主体となって、アプリ開発や地域調査、運営体制の構築までを行った。

Who(誰に) 主な対象者は、イベントに参加したい・イベントを立ち上げたい高校生、加えて若い世代を巻き込んで地域イベントを開催したい地域団体の2つである。

When 9月上旬から活動をスタートし、毎週ミーティングを行って首里石嶺地域を活性化させるアプリの開発を進めていった。12月末時点で少なくとも計16回以上のミーティングを行っており、2026年1月まで活動を行う予定である。

Where 対象地域は沖縄県那覇市の首里石嶺である。首里石嶺は首里の中でも人口と世帯数が多く、子供から高齢者まで様々な世代の人々が住んでいる。一方で、多様な世代間での繋がりがりや地域活動を担う人材不足の現状がある。

How 市のデータや地域の方々へのヒアリングなどから調査を行い、地域の課題分析を行った。そうした調査結果に基づき、開発するアプリの方向性を決めていった。また、デモアプリを作成し、連携する地域の団体にアプリのイメージや機能について提案した。そこでのフィードバックを基に、再度アプリの見直しを行った。開発したアプリには主に以下の機能を盛り込んだ。

参加者向けアプリ

- ・開催されるイベント一覧が見れる(イベントの種類や対象者で絞り込み・検索が出来る)
- ・カレンダーからイベント日程が確認できる
- ・首里石嶺周辺の施設情報が確認できる(公民館や避難所など)
- ・イベントを立ち上げたい高校生がイベントを簡単に立ち上げることができる
- ・高校生が首里石嶺の地域団体一覧を確認できる

団体向けアプリ

- ・地域で開催予定のイベント一覧が見れる(イベントの種類や対象者で絞り込み・検索が出来る)
- ・カレンダーからイベント日程が確認できる
- ・地域団体がイベントを立ち上げたい高校生と連絡を取れる
- ・地域団体がイベントを立ち上げたい高校生一覧を確認できる
- ・首里石嶺の地域団体一覧を確認できる

こうした機能を盛り込んだアプリを開発したに加えて、中高生が地域課題について考える「中高生 地域みらい会議」を企画して実施し、地域の団体と中高生が繋がる場づくりにも取り組む予定である。この場に集まった中高生に開発したアプリを共有し、地域活動への参画に促していきたい。

2、アイデアの理由

2-1.理由のポイント

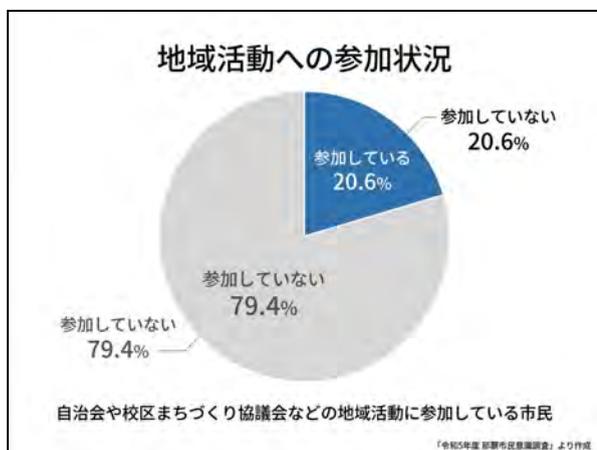
現在の地域社会において、世代間の繋がりが少なくなっていることは全国的な課題となっている。首里石嶺地域も同様の問題を抱えており、特に中高生と地域との接点が少ないことによる地域活動の衰退が顕著である。中高生は、地域のイベント情報を得る場が少なく地域への関与が乏しい。地域と積極的に関わりたいと思っても、情報不足により機会を得られない。また、自らイベントを開催し地域に貢献したいと思っても、どう行動すればよいかわからない人も多いと考えられる。

一方で、地域イベントを企画・運営している地域団体は高齢者が多く、イベントを立ち上げる若い人材を求めている。若い人材の協力があれば、今よりもより多様で活発なイベントを開催できるだろう。地域のイベントに参加して地域活性化に向けた活動を行いたい中高生と、若い世代と共に地域活性化を行いたい地域団体が繋がる仕組みを作ることが大切である。

そこで、高校生が地域のイベント情報を簡単に得られて参加できる機能や、地域団体が地域イベントを開催したい高校生と連絡を取り合いイベントの企画・運営を行うことができるマッチング機能を持つアプリを開発したい。それにより、中高生は地域との関わりを持ちやすくなり、地域団体は継続的に若い世代と繋がっていくことができる。本アイデアは、単なる情報共有にとどまらず高校生と地域団体の間に簡単に持てる繋がりを生み出す土台となる。

総じて、本アイデアは高校生と地域団体の間に生じている情報の断絶を解消し、協力関係を円滑に構築するためのものとして重要な役割を果たす。イベント情報へのアクセスを簡素化し、互いが求める協力内容を明確に共有できる仕組みを整えることで、従来の地域活動では実現し得なかった双方向の関わりが可能となる。高校生の主体的な地域交流を支え、団体が直面する担い手不足に応えることにより、地域コミュニティの形成・持続と地域活性化のための新たな連携モデルを構築できると考えた。

2-2. 根拠・裏付け



市民の地域活動への参加状況に着目すると、その参加率は決して高くないことがわかる。那覇市が毎年実施している「令和5年度 那覇市民意識調査」によれば、自治会や校区まちづくり協議会など、地域活動に参加している市民は全体の約20%程度にとどまっている。この数値は、成人層に限定されず市民全体の傾向であるため、中高生を含む若い世代においては、さらに参加機会が少なくなっていると推測できる。地域活動への参加率が低いことは、地域とのつながりを感じられない層が一定数存在することを示しており、特に若年層は学校生活の忙しさや、地域との接点不足などから、その傾向

が強くなる。したがって、若者が地域と関わるための入口をつくるアプリの必要性は高いといえる。

また、石嶺小学校区まちづくり協議会やミネコヤなどの地域団体にヒアリングを行う中でも若い世代の地域活動への参加が課題となっていた、これまで石嶺で地域活動を担ってきた世代も年齢を重ねていくことによって地域活動そのものが縮小してきており、次の世代をどう地域活動に巻き込むかが大きな課題となっていると団体の方々は困っている状況が伺えた。

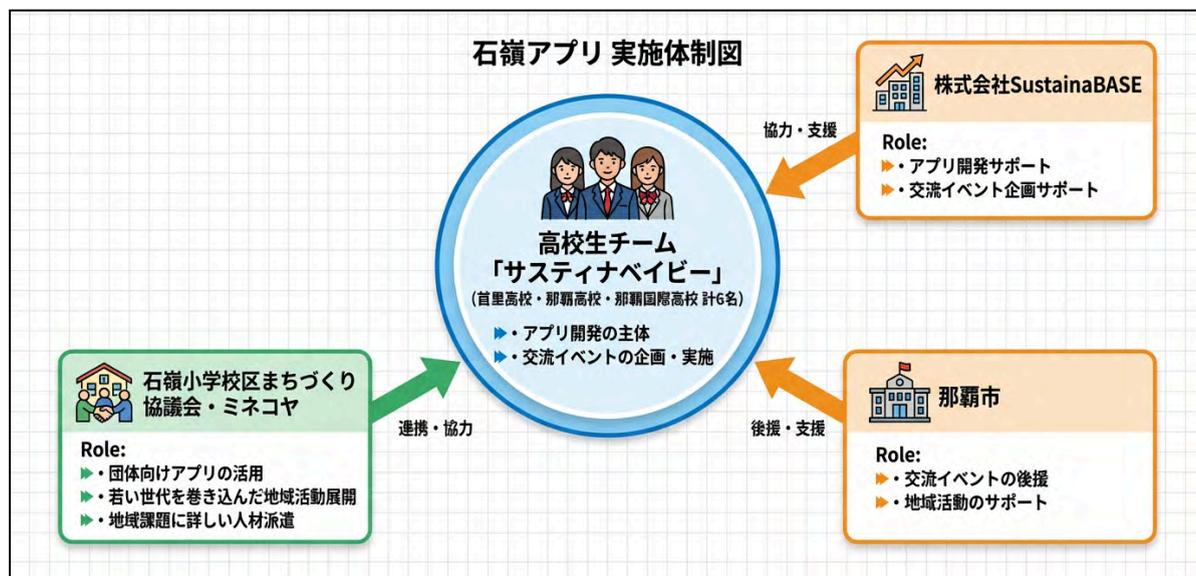
加えて、那覇市では市民の地域参加を支えるための情報発信サイトや制度が整備されており、市民が地域活動に関心を持つための基盤は一定程度整っている。しかし、これらの情報は市全体を対象としたものが中心であり、首里石嶺という特定地域に特化した情報や、日常的な地域活

動の実践に直結するような仕組みは限られているのが現状である。また、既存のサイトは主に情報提供を目的としており、高校生が地域団体と直接繋がりをイベントを「一緒に立ち上げる」ことを想定した設計にはなっていない。特に高校生にとっては、地域活動の情報を見つけても、その後の団体に相談すれば良いのか・どのように関われば良いのかが分かりにくく行動に移すまでのハードルが高い。そのため、地域活動への関心があっても実際の参加や企画に結びつかないケースが多いと考えられる。そこで、首里石嶺地域に特化し、地域団体と高校生が双方向に繋がりをしながらイベントを立ち上げられるアプリを開発することで、情報取得から実践までの流れをまとめて支援することが可能となる。本アプリは、既存の行政情報や地域活動促進の取り組みを補完し、高校生がより主体的に地域と関わるための実践的なツールとして機能する点に意義がある。

以上のように、①地域活動の参加率の低下、②首里石嶺の地域活動参加に繋がらないという側面から、若い世代を地域活動に巻き込むためのアプリの開発が必要である。

3、実現までの流れ

3-1.実現する主体



この活動は高校生チームサスティナベイビーが中心となり、石嶺小学校区まちづくり協議会、ミネコヤ、株式会社SustainaBASEなどの地域の団体と連携して行ったものである。私達高校生チームは、本活動の企画・実践の主体となり、アプリ内容の検討やフィールド調査を担当した。首里石嶺地域の団体には、実際にアプリの使用者としてデモアプリのフィードバックを行ってもらったり、中高生との協働企画に向けた準備を行ってもらった。また、株式会社SustainaBASEにはアプリ開発や「中高生 地域みらい会議」の企画サポートを行ってもらった。そして、那覇市には「中高生 地域みらい会議」を実施する際の後援をしてもらい、ボランティア活動に意欲のある中高生の活動の受け皿として対応していただく予定である。

3-2.必要な資源と調達方法

〈ヒト〉

・地域のイベントを開催、または中高生の地域イベントを伴走する地域の大人

▶アプリを活用して地域で開催予定の情報を発信したり、イベントを立ち上げたい中高生らの企画・実施を伴走する地域の団体が必要である。那覇市では、市全体を小学校区ごとに区域を分け、地域の中核となる「小学校区まちづくり協議会」が設置されている。石嶺小学校区まちづくり協議会と連携し、開発したアプリの活用と中高生による地域イベントの伴走を依頼した。また、石嶺地域で多世代間の繋がりに取り組む「ミネコヤ」とも連携し、アプリの活用と中高生による地域イベントの伴走を行っていただく予定である。

・地域活動に参画する中高生

▶中高生を巻き込んで地域活動への参画を促していく必要がある。石嶺周辺地域の首里高校にはや城北中学校、石嶺中学校の生徒を巻き込んでいくことが重要であった。私達の高中生チームには首里高校に通っているメンバーがいるため、そこから首里高校の生徒に声掛けを行った。また、石嶺中学校や城北中学校には、石嶺小学校区まちづくり協議会の会長から校長先生に協力を依頼し、城北中学校には株式会社SustainaBASEからPTA会長に協力を依頼した。

・「中高生 地域みらい会議」の中で中高生と議論する石嶺地域の大人

▶地域の中高生と団体とが繋がる場のために開催する「中高生 地域みらい会議」の中で、中高生に石嶺地域の現状についてフィードバックしたり、課題解決に向けた企画を一緒に行ってくれる大人が必要であった。この点は、石嶺小学校区まちづくり協議会の方々を中心に依頼をした。

〈モノ〉

・アプリ開発に必要なデバイス

▶アプリ開発を行う際に必要なデバイスは私達高校生チームのメンバーそれぞれが所有するタブレットを活用した。

・アプリを開発する際のノーコードツール

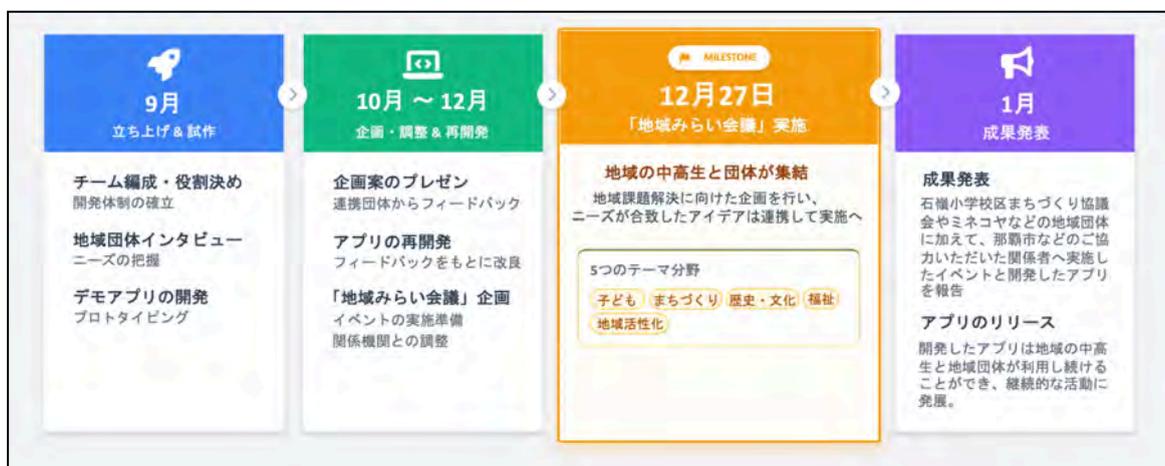
▶アプリを開発するための「glide」というノーコードツールを活用した

〈カネ〉

・glideを使用するためのお金

▶2026年2月までは株式会社SustainaBASEにglideの使用料をサポートしていただき、その後は石嶺小学校区まちづくり協議会やミネコヤなどの地域団体の方でglideの使用料を支払う想定である。開発したアプリはそのまま地域団体の譲渡する予定である。

3-3.実現までのプロセスと時間軸



〈9月〉

- ・9月は誰が何をやるのか役割を決め、プロジェクト管理やアプリ開発、地域交流イベントの企画担当などの役割に分かれて準備を進めた。
- ・石嶺小学校区まちづくり協議会やミネコヤなどの地域団体の方々に石嶺地域の現状や課題をヒアリングした上で、デモアプリの開発を行った。

〈10～12月〉

- ・作成したデモアプリを地域団体の方々に提案させていただき、フィードバックの内容を基にアプリの見直しを行った。
- ・地域交流イベントの内容を企画し、準備を行った。

〈12月27日〉

- ・「中高生 地域みらい会議」を実施する予定である。那覇市にも後援をいただきながら、「子ども」「歴史・文化」「まちづくり」「福祉」「地域活性化」の5分野を設定して地域課題をディスカッションするイベントを石嶺公民館で実施する準備を行っている。
- ・「中高生 地域みらい会議」に参加した中高生らに開発したアプリをプレリリースし、中高生が地域活動に参画するきっかけをつくる。

〈1月〉

- ・今回の活動にご協力いただいた石嶺小学校区まちづくり協議会、ミネコヤ、那覇市の関係者に向けた活動報告会の実施を予定している。活動報告会の中で、アプリの正式版リリースも行いたい。

3-4. 想定リスクと対応策

- ・中高生だけでイベントを立ち上げると事故やトラブルになる可能性がある
 - ▶地域の団体と連携して立ち上げるようフローを設計する
- ・中高生によるイベント実施時の万が一の事故の補償
 - ▶那覇市が社会福祉協議会と連携するボランティア保険の活用